

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## Viti Levu島高地, Nadrau村の社会組織

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-11-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/5159">http://hdl.handle.net/10502/5159</a>

#### 民族班・民族グループ報告 4

### Viti Levu 島高地, Nadrau 村の社会組織

須藤 健一

調査地 Nadrau 村は, Viti Levu 島の Sigatoka 川の上流にあり, Victoria 山の南麓, 海拔1,000mに位置する山村である。行政上は, Nadroga/Navosa 県, Navosa 地区に属す。この村の人びとの祖先は, 約150年前に, 10km下流にあった旧村から移住してきたと伝えられている。現在, 20戸あまりの家屋(*vure*)に, 約110 人の人びとが住んでいる。オセアニアの島嶼部で, 海拔500m以上の山間地域に, 人びとが集落を形成して居住する例は, ニューギニア高地を除けば, Fiji 諸島以外にはない。海岸部や低地より, 住むための自然環境に恵まれない山地民としての Nadrau の人びとの生活は, 民族学や生態学の調査・研究において大きな関心もたれる。なお, 今回の調査では, Nadrau 村の滞在が1日で, 村人からの情報も1人に限られているので, 本報告は, 予報の域をでるものではない。

#### 生 業

Nadrau 村の人びとの主要栽培作物は, タロイモ(*dalo*: *Colocasia esculenta*, *via kana*: *Cyrtosperma chamissonis*), ヤムイモ(*uvi*: *Dioscorea alata*), バナナ(*vudi*: *Musa balbisiana*), タピオカ(*tapioca*: *Manihot esculenta*), 葉を食用にするハイビスカス(*vauvauni viti*: *Hibiscus manihot*)である。年間気温が低いこともあって, 海岸地域や低地で栽培されているサトウキビ, サツマイモ(*kumara*: *Ipomoea batatas*), ココヤシ(*niu*: *Cocos nucifera*), パンノキ(*uto*: *Artocarpus altilis*)は, ほとんどつくられていない。タピオカ, カバ(*yagona*: *Piper methysticum*), 新しくとり入れた野菜類は, おもに, 集落の周囲の傾斜面を開墾した耕地で栽培される。しかし, それらのほかの作物は, 集落から離れた森林地域での焼畑耕作によっている。焼畑は, 毎年, 500m<sup>2</sup>くらいの規模の二次林を切り開いてつくられる。そこは, 何区画にも分けられ, タロイモ, ヤムイモ, バナナ, タピオカ, マメ類が植えつけられる。1~2年利用すると, そのあと少なくとも15

年は、休閑地にされる。

1972年に、Tavuaの町への道路の開通後、イモ類、タピオカ、カバが商品作物としての価値をもつようになった。現在、タロイモは、4～5個で5ドル、タピオカは、20kgで10ドル、カバの根は、植えてから5年たった根5束で、20ドルの価格で市場へ出せる。村の男は、それらを売ることで、毎月、25ドルの現金を得ている。

伝統的には、焼畑による農耕は、男性の仕事とされ、パンダナスのマット(*ibe*)やカジノキ(*masi*: *Broussonetia papyrifera*)の内皮を叩きのぼした樹皮布(*masi*)をつくるのは、女性の仕事とされてきた。しかし、ここ10年前から樹皮布づくりもなされなくなり、女性も農耕に従事するようになり、男女間での明確な形での分業がおこなわれなくなった。20年前から畜牛の飼育が始められたが、それ以前は、ブタとニワトリが、主要な家畜であった。そのほかに、山での野豚の狩猟や川でのウナギを中心とする漁撈もなされていた。

### 社会組織 — *mataqali*, *yavusa* —

Nadrau 社会では、土地を所有し、経済的、宗教的に、*corporate group* を形成する社会集団の単位は、*mataqali*とよばれる、地縁化した出自集団である。これは、基本的に、1人の男性祖先を共有し、父系的に系譜関係をたどれる人びとよりなる親族集団である。*mataqali*は、以上の性格から、*patrilineage*とみなすことができよう。現在、この村には、Narokomai, Nakorolakalaka, Nakoro, Nadrogo, Nakoturaga, Wairevuの6つの*mataqali*がある(図1参照)。それらは、移住してきた時期の古さや系譜深度などによって、ランクづけられており、Narokomaiが、最上位にある。

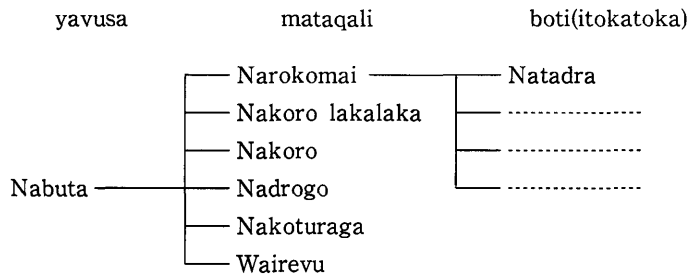


図1 Nadrau村の親族集団の構成

この*mataqali*は、また、世襲的な職業や職務を示す地位と関係している。たとえば、*turaga*(首長)、*matanivanua*(代弁者)、*bete*(司祭)、*bati*(戦士)、*mātaisau*(大工)などである。これらの職業的な名称をつけられている*mataqali*の成員は、必ずしも、それらの活動をするわけではない。これは、政治的に従属する*mataqali*が、村落社会において果しうる奉仕に基づいて、各集団間の政治的なつながりや関係をあらわす名称である。Nadrau社会においては、首長の職務はNarokomaiが、代弁者のそれは、Nadrogoが、それぞれうけもっている。

そして、Fijiの伝統的社会では、このような*mataqali*がいくつか結合して、上位の社会的単位となる*yavusa*を形成する。*yavusa*の語義は、「土地」の意味であるが、*yavusa*は、祖先が共通であるという想定のもとに連合した*mataqali*の集団である。対外的には、侵略に対する防衛や領土拡大の戦争などに1つの集団として機能する。1村落が複数の*yavusa*で構成される村もあるが、Nadrau村の場合は、6つの*mataqali*が結びついて、Nabutaという1つの*yavusa*を形成している。

### 家族 — *boti*(*tokotoko*), *vuvale* —

*mataqali*は、*boti*とよばれるいくつかの父系大家族よりなる。*boti*は、*boti ni lovo*に由来し、*lovo*(「石蒸し料理用の地炉」)の*boti*(「端」とか「一方の側」)という意味である。つまり、「炉を分けた人び



とサンゴ礁島，低地と高地といった生態学的要因を考慮にいれて，比較考察を加える必要がある。

#### 参 考 文 献

- CALVERT, J. 1976(1858) *Fiji and Fijians*. Vol. 1. London : Alexander Heylin.
- CAPELL, A. 1973(1941) *A New Fijian Dictionary*. Suva : Government Press of Fiji.
- FIRTH, R. 1957 A Note on Descent Groups in Polynesia. *Man* 57: 4-8.
- PARHAM, J.W. 1973 *Plants of The Fiji Islands*. Suva : The Government Printer.
- SAHLINS, M. D. 1962 *Moala : Culture and Nature on a Fijian Island*. Ann Arbor.
- WALTER, M. A. H. B. 1978 Analysis of Fijian Traditional Social Organization : The confusion of Local and Descent Grouping. *Ethnology* 17 : 351-366.